

# 彩の歳時記

平成二十四年 五月

さつき待つ 花橋の香をかげば 昔の人の袖の香ぞする

古今集 よみ人知らず

「五月を待つて咲く花橋の香をかぐと、昔親しかった人の袖にたきしめた香のにおいがする」

出典は「伊勢物語」。主人公が旅の途中、ある貴族の館で、昔別れた恋人が貴族の妻になつてゐるのに遭遇、貴族の前では声もかけられず、彼女が酌に來た時、昔と同じ橋の花の香が袖から漂うのを感じ、詠んだ歌。「香」には、遠い記憶を立ち上げる不思議な力があります。橋は、陰暦五月、恋人たちが逢瀬を禁じられた月を待つて咲くので、その香は切ない恋心呼び起こし、この歌以後、「花橋」の歌は、昔の恋人への心情と結び付けて詠まれました。

橋(立花)はミカンの木で日本古来の野生の柑橘(完熟した甘味の果実と青い酸味の果実の意)。



## 五月の異称

五月と読み、早月・皐月とも書く。皐は「気が澄み渡る」の意。

## 五月の暦

一日 **マザーデー**

ヨーロッパを起源とする春の祭典。現在は、世界の労働者が権利と政治的要求を掲げてデモなどを行なう。「8時間の労働、休養、自由」を要求して、米の労働者が立ち上がった日に由来。

一日 **八十八夜**

雑節。立春から、八十八日目。遅霜の時期。また、唄で知られる一番茶摘みの頃で、この日に摘んだ茶を飲むと長生きするといわれる。「夏も近づく八十八夜・・・」

三日 憲法記念日(祝日)

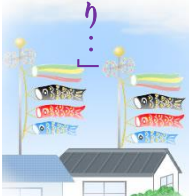
1947年(昭和22年)のこの日、日本国憲法が施行された。早や65年。

四日 **みどりの日(祝日)**

昭和六十年より。

五日 **こどもの日(祝日)**

端午の節供。菖蒲(尚武)の節句。風薫り、草萌え「高く泳ぐや鯉のぼり」と真つ青な空に泳ぐ鯉のぼりが似合う季節。



五日 **立夏【二十四節気】**

夏立つ日。「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」山口素堂【1642～1716】

十三日 母の日【第二日曜日】1915年に教会で祝われたのが始めて、1937年に森永製菓が「母の日」の普及活動を全国規模で展開「ありがとうお母さん」を日本に定着させた。

十八日 国際博物館の日

国際博物館会議(ICOM)が1977年に制定した記念日。国立博物館、科学博物館、西洋美術館など、全国の博物館や美術館で常設展を無料開放。また、様々なイベントも。



十八～二十日 三社祭(浅草神社) 正和元年(1312年)に三社の神話に基づいた「舟祭」から七百年祭ということで三月に船渡御が行われた。昨年の分までの人出が予想される。江戸三大祭りの一つ。

二十一日 小満【二十四節気】

麦などの穂がつく頃(少し満足)するの意。万物盈満・草木枝葉繁る。

二十九日 **白桜忌**

歌人・与謝野晶子【1878～1942】の忌日。「私の戒名には白桜院を…」から。



「やは肌のあつき血汐にふれも見で きびしからずや 道を説く君」(長くほつた肌を濡れず人生を説くばかりで寂しいでしょう) 道徳に反抗したことで伝統歌壇から批判されたが、奔放に青春の情熱と人間を歌いあげた処女歌集「みだれ髪」は近代文学における浪漫主義詩歌の記念碑的作品。民衆から熱狂的な支持を受けた。師である与謝野鉄幹【1873～1935】と結婚、十二人の子の母。五万首の短歌を遺す。

五月の薔薇白ふ時 夫人ゆきたまふ。夫人この世に來りたまひて 日本に新しき歌うまれ その歌世界にたぐひなきひびきあり 高村光太郎

## 五月の歌

みかんの花咲く丘

終戦直後【1946年8月25日】に生まれた、童謡の名作。当時、人気絶頂の童謡歌手川田正子【1934～2006】の歌唱で放送され、全国に大反響を呼んだ。モデルとなった静岡県伊東市宇佐美の亀石峠には「みかんの花咲く丘」の歌碑。また地元を走るバス会社のガイドは、入社と同時にこの歌の指導を受ける。作曲の海沼(かいぬま)實【1909～1971】は長野県松代出身で、児童合唱団「音羽ゆりかご会」の創設者、川田正子の継父。作詞の加藤省吾は静岡県富土宮の出身で他に『かわいい魚屋さん』。Jリーグの愛媛FCの応援ソング。



みかんの花が咲いている  
思い出の道 丘の道  
はるかに見える 青い海  
お船がとおく かすんでる  
二番 略  
何時か来た丘 母さんと  
一緒に眺めた あの島よ  
今日もひとりで見ていると  
やさしい母さん思いわるる